

平成30年度 研究推進計画

つぼみちゃん&ひびき

1 研究主題 ひびき合い よりよく学ぶ 子どもの育成

～ みんなで「そろえる」 みんなで「ふかめる」～

2 主題について

本校では、学校の教育目標「夢と自立のつぼみ ふくらます子 ― ひびき合い みんなでつくる笑楽幸―」を具現化するために、今日、明日、そして未来に向かってがんばるための心の栄養「夢」をふくらませながら、「知」「徳」「体」をバランスよく子どもたちに身に付けさせたいと考えている。これまで本校では、「自ら課題を見付け、広い視点から自分自身に問いをくり返すことで、よりよい答えを追究していく力」を「考える力」と捉え、探究型授業の充実に取り組んできた。

探究型授業を充実させる手立てとして本校では、「みんなでふかめる」を合い言葉に、「比べる・つなげる・見える」をキーワードとした授業改善に取り組んできた。さらに、「みんなでそろえる」を合い言葉に、学習規律の徹底にも全校で取り組んでいる。多人数学級において、学習規律をきちんとそろえることで、授業改善をさらに効果的に進めていきたいと考えたからである。

これまでの実践で、見通しをもち主体的に課題解決に取り組んだり、互いに比べながら考えを交流する姿が多く見られるようになった。また学習規律の徹底により、授業態度や学習に向かう意識が向上し、効率的に授業を展開することができた。各種学習状況調査等の結果からは、基礎的な内容がよく身に付き、学習意欲も高いことが数値として現れており、昨年度の課題であった「考える力の育ち」と「基礎基本の定着」とのつながりについても一定の成果が得られた。

一方で、集団思考が「一人一人」の学びの深まりにつながっていないという課題が見えてきた。ハンドサインなどを使い、友だちの考えと比べながら活発に話し合い「みんなで解決」できたとしても、それが、一人一人の学びの定着や深まりと一致しない場合も少なくない。

これらの成果と課題を受け、研究主題を『ひびき合い よりよく学ぶ 子どもの育成ーみんなでそろえる みんなでふかめるー』とした。学習規律を徹底し、共に学び合う（ひびき合う）ために必要な力を全校で「そろえる」ことで、学びの集団としての質を更に高め、効果的・知的な授業展開の土壌づくりを進めたいと考えた。同時に、「比べる・つなげる・見える」をキーワードにした授業改善を「ふかめて」いく。今年度は特に、「伝え合う」場面と「まとめ」「振り返り」に重点を置き、集団での学び（ひびき合い）と「個」の学びの深まりとのつながりにアプローチしていきたい。課題や見通しをもち、他とのかかわり合いを通して自分自身に問いをくり返しながら学びを深め、実感し、新たな学びに向かう姿を「よりよく学ぶ」とし、本研究主題を設定した。

3 研究主題へのアプローチ

(1) 目指す子どもの姿

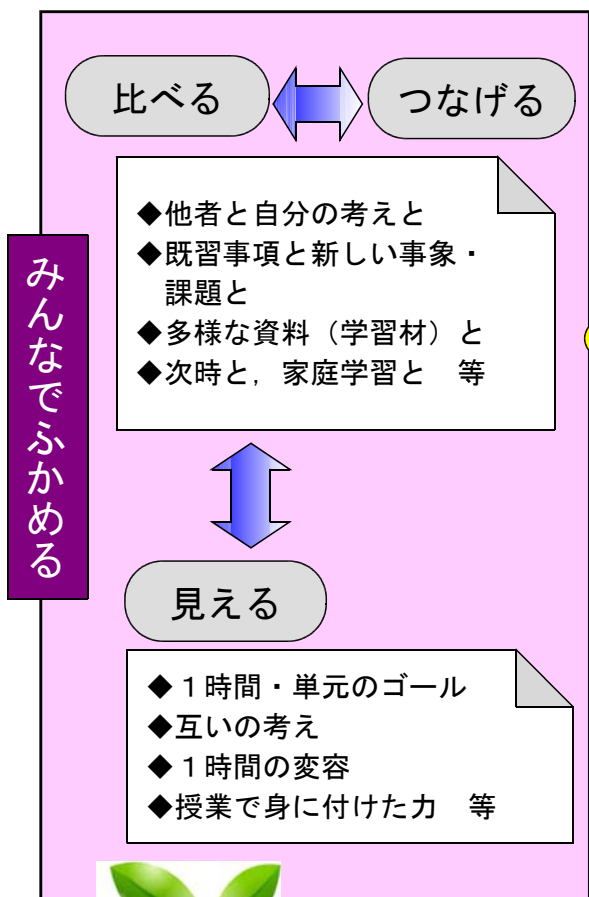
- 学習規律と共に学び合うために必要な話し方・聴き方の資質・能力を身に付けている子ども
- 課題や見通しをもって学習に向かう子ども
- かかわり合いを通して、自分自身に問いをくり返しながら理解（達成）したり、学びを深めたりする子ども
- 振り返りによって学びを実感したり、新たな課題に気付いたりする子ども

(2) 研究の仮説

- ①学習規律の徹底と，児童が共に学び合うために必要な話す力・聴く力の資質・能力を育てることで学習集団の質が高まり，効果的に授業改善を進めることができるであろう。
- ②「比べる，つなげる，見える」をキーワードに学習過程を工夫することで，探究型授業が推進されるであろう。

ひびき合い よりよく学ぶ 子どもの育成

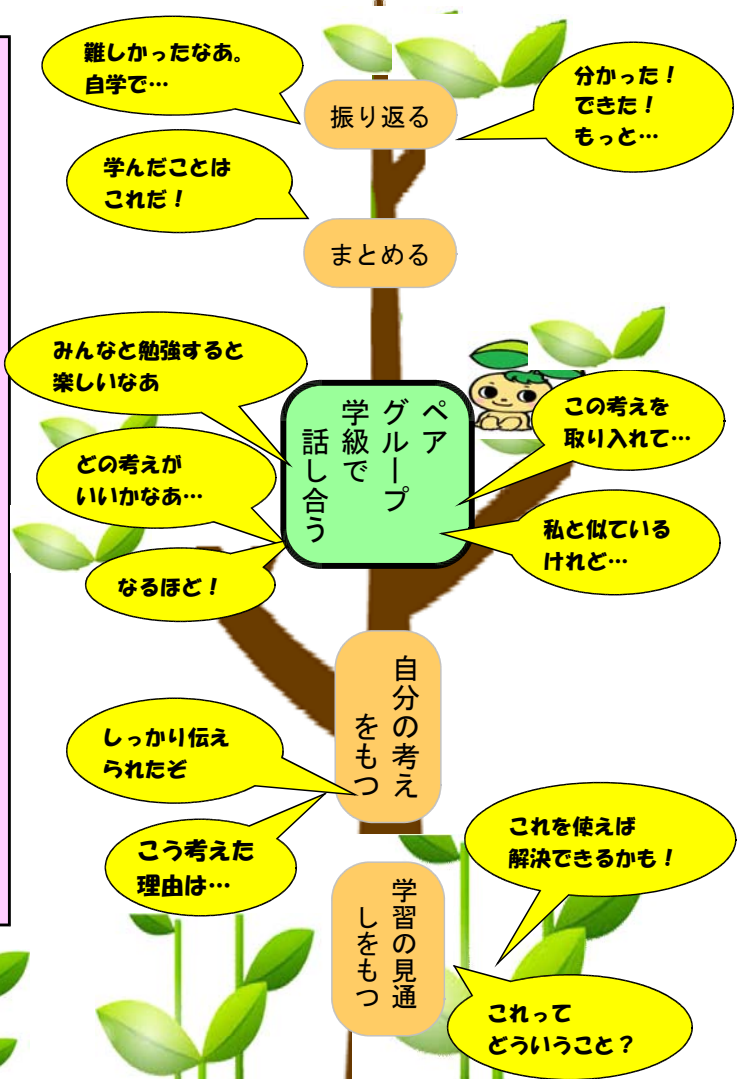
[指導のポイント]



みんなでふかめる

みんなでそろえる

[探究型授業と期待するつぶやき]



学級集団の学びの土壌

- 学習規律**
- ◆東っ子の学習ルール

- かかわり合いの資質・能力**
- ◆話し方・聴き方
 - ◆学年に応じた話す力・聞く力

(3) 今年度の重点

- ①「みんなでそろえる」
 - ・学習規律を精選し，強調週間やマスター選定を継続して行う。(仮説①)
 - ・研修日よりや研修ボード等を活用し，「何を」「何のために」を行うか，また個々の実践を共有する等，研修への共通理解を図る。(仮説①②)
- ②「みんなでふかめる」
 - ・「比べる，つなげる，見える」をキーワードにし，学習過程のそれぞれのプロセスで目指す姿を具体化した授業を行う。(仮説②)
 - ・他者との関わりが効果的に学びに反映されるよう，「話す」「聴く」資質・能力を具体的にし，鍛えていく。(仮説①②)

(4) 研究の進め方

- 学年部（1～6年，特支部）研修を主体とする。
 - ・3月に目指す子どもの姿に向かって月ごとに研修の重点を設け，短期P D C Aを重ねていく。
- 教科・領域を特定せず，提案授業を年間一人1回行い，子どもの姿を通して研修を深める。
 - ・指導案検討会は「学年部＋必要に応じて教科部」で進める。
- 家庭学習については小中連携で情報交換を図り，家庭への啓発や指導の継続を図る。
- 職員室内の研修コーナーに，共通実践への取組，成果と課題等の情報を貼り出し，全体での研修を進めていく。

(5) 研究の評価と見直し

	評価方法	判断する基準	評価時期	担 当
短期	○教師・児童アンケート ひびくんの日カード 「学習規律」 「話す・聴く資質能力」 「学びのスタンダードの各プロセス」	教師 4段階で3.5以上 児童 前回より上回っている	教師 5月～12月の毎月・2月 児童 6・9・12月	研究主任 学年部 学習部会
長期	○全国・県学習状況調査 ○C R T	県／全国平均より上回っている	4～6年児童 4月・12月 1～3年児童 1月	研究主任 学年部

(6) 研究の組織

